



おじゃまします

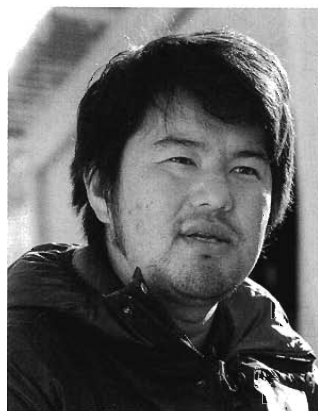
さかき新企業人インタビュー⑫

ひし だしょうへい
菱田昌平さんプロフィール

菱田工務店 代表

昭和53年、坂城町生まれ。職人の世界に憧れ、19歳で大工棟梁に弟子入り。5年の修業を経て26歳で独立、今は若き親方として忙しい毎日を送る。また「信州木の家」「削ろう会」など工務店や職人仲間とのネットワークにも積極的に参加。趣味は映画（ビデオ）鑑賞でヒーローズやFRINGEなどのアメリカTVドラマにハマっている。「成せば成る」がモットー。「どんな仕事でも向き合えば必ず答えは見つかると思っています」と言い切る。

木と技術と 感性にこだわる 若き大工棟梁



20代半ばで一人大工として独立。厳しい修業時代からさまざまな現場経験を経て、自分なりにやりたいことが見えてきたという菱田社長。木と技術にこだわり、見聞を広げ感性を磨きながら、木の国・信州らしい、そして自分らしい家づくりを目指している。

——大工を目指したきっかけを教えてください。

「小さい頃から物づくりが好きでしたが、通信制高校に通っていた頃、アルバイトをしていたサッシ店で大工という仕事を紹介されました。それがきっかけですね。高校を中退してこの世界に飛び込み、紹介された丸子の大工棟梁の下で5年間修業し、木造建築・大工仕事を学びました。

親方は当時70歳ぐらい。年齢から言えば私の祖父と同世代です。昔かたぎの方で、昔ながらの伝統的な大工技術をマンツーマンでみっちり学ばせていただきました。厳しい修業でしたが、これが今の自分の大きな財産になっている

と思います」

——木や素材、木組みにこだわる生真面目ともいえる今の家づくりの基本を培ったのですね。

「ええ、大工工務店といえども経営ですから利益を考えたわけではないと思います。しかし、利益第一主義ではなく、本当にいい家、お客様に喜んでいただける家づくりをしたい。親方にそういう意味での職人気質や大工仕事の厳しさを教えていただいたと思います」

——いい師匠にめぐり合えたといえますね。そういう菱田社長にとって『家づくり』『大工』とはどういうものなのでしょうか。

「現在は年1〜2棟のペースで新築住宅を手がけています。設計・プランニングに半年ほどかけ、お施主様とじっくり打ち合わせをしながら丁寧な仕事をしよう心がけて家づくりを進めています。プランニングの中で、お施主様が考えておられるイメージを上回るようなプランをご提案すると、とても喜んでいただけます。設計だけでなく、実

際に木を削り、組み上げ、1棟の家を造り上げていくことに勝る喜びはないように思えるのです」

——『信州木の家』というネットワークでも活躍ですね。

「このネットワークは、県内の住宅ビルダーや信州木材認証製品センターなどが集まって長野県産材を使った家づくりを進めているもので、若輩ですが私も参加させていたいています。ホームページには工務店情報や木の家の見学会情報などが紹介されていますので興味のある方は覗いていただきたいですね。私の手がけた住宅も写真入りで紹介されています（笑）」

——最後に菱田社長の夢を教えてください。

「夢というか、一生涯、大工であり続けたいですね。ただ、現場一本やりいうのではなく、家づくりの最初から最後まで目を通せる、いわば設計士と大工の中間のような、昔ながらのしつかりした技術と常にみずみずしい感性を持つ棟梁……。そんな大工をめざしています」